

經濟論叢

第七十九卷 第三號

故 谷口吉彦博士、故 松岡孝兒博士遺影ならびに署名

觀光税の問題点……………	神 戸 正 雄	1
米国外投資の成熟と停滞……………	岡 田 賢 一	14
財政学と国家認識……………	斎 藤 博	37
故 谷口吉彦博士略歴・主要著書論文目録……………		55
追憶文 (石川興二・松井 清・河野健二)		
故 松岡孝兒博士略歴・主要著書論文目録……………		69
追憶文 (中川与之助・中谷 実・酒井一夫)		

昭和三十三年三月

京 都 大 學 經 濟 學 會

追憶文

旧友松岡孝児君を憶う

中川与之助

昭和卅一年十二月十四日経済学博士北海道大学経済学部教授松岡孝児君が逝去せられた。我らにとっては洵に急突なことであつて愕然として悲痛久しうしたことであつた。遺族にきけば、君の健康は三年程前から異状を呈して来ていたらしい。即ち昭和二十九年の春に頸に出た瘍疾のために約二ヶ月ばかり自宅で外科手術をうけたそうだ。それからその翌年昭和三十年三月一日には直腸癌のために京大病院に入院して外科手術を受け引続き約六ヶ月も在院して九月に全快したとて退院した。この永い病院生活中に、私は公私の用事のため君を二三回病院に訪ねたが、手術後の経過は大変よろしらしく、体は肥満しており顔色もよく殆ど健康時と同じ様子で話をしていらした。退院ときいた時これで完治したものと我らはほつと安心したのであつた。君も非常に嬉しかったらしく内祝などしていた。さて越えて昭和三十一年の七月、君は北海道大学の講義をなすべく飛行機で同地に赴き七月十四日から七月一杯集中講義を続けたという。それが多少無理であつたのでなかるうか、京都へ帰つて聞

もなく腹痛を訴へ出して、八月二日に又京大病院の外科へ入院した。前年手術を受けたと同一の主任教授の手術を受けたのであるが、病名は医学的にはむづかしいといわれるが、結局、先の病気の再発ということになつたらしい。そこで八月十四日に手術をうけたのであるが、それから四ヶ月たつて十二月十四日に病勢俄に革りて遂に歸らぬ客となつてしまつたのである。痛惜の限りである。遺骸は京大病院で解剖に附し十五日密葬の式をあげた。何分咄嗟のこととて多くの人に通知するひまもなく、通知した方々にも不在が多かつたが、それでも神戸正雄先生、作田莊一先生、高田保馬先生や石川興二先生等の旧恩師をはじめ、経済学部の現職教授の多くの御来弔を忝うしたことは故人にとりての光栄であつた。悲しくも密葬を了えて遺骨は故人の住み馴れた松ヶ崎御所内町の旧宅に運び、驚いて馳せつけた親戚や門下生や友人知人らに守まれて通夜をし、十八日に告別式をその松岡君の私宅で挙げた。今は「顕衷院英学孝貞居士」という法名に変わった故人の御靈前に北海道大学・京都大学経済学部・同志社大学その他各方面からの楡や供花が多く飾られ、多くの弔辭・弔電がよみあげられ、多くの会葬者が往來し、しめやかな中にも盛大な葬儀であつた。故人は享年六十三歳であつたが、また北大の現職教授であつた。体軀は例の如く窶々たるもので死に至るまで大した面やつれもみせず、学問に対する情熱は益々盛んで、本人もこれより大いになす所あらうと期

していたようであったが、天寿は茲に尽きたことは如何とも致し方がない、しかし故人は学者として多くの立派な業績を遺していた。昭和六年刊の「景気予測法の研究」をはじめとして、続々力作が世に出されその数が七冊にも上り、著書の外に経済論叢・東亜経済論叢や日仏文化等の諸誌に發表した論文は実に多数に及んでいる。殊に健康が頻頻に傾いた昭和三十年にローブカン原著の「仏印経済発展論」を同三十一年にアンドレ・トゥーゼーの原著「印度支那貨幣制度の研究」を訳出して公刊せられているが、その学問的情熟と精進のほどは驚嘆するの外ない。さて故人の生涯を顧みると決して坦々たる大道を歩いたものではなく、むしろ荊棘の難道を押し進んだ人と思われる。君は幼時軍人を志願して陸軍幼年学校に入り遂に陸軍士官学校を卒業した。しかし中途にして学界入りを始め、陸軍を退官して東京外国語学校に入り、卒業後は更に転じて京大経済学部に入學し同学部の學士試験に合格後も引続き、同学部に止りて助手をつとめ、遂に講師・助教授と昇進して昭和十五年一月には教授に就任した。その間三高・関大・同志社・立命館大学の講師をもつとめていた。昭和十四年二月には有名な大著「金為替本位の研究」によりて、京大から経済学博士の学位を獲得した。松岡君は本来ならば軍人であるべきを學問を研究せんとして方向を転換し、それが不利と知りつつも、君のやむにやまれぬ真理愛のために遂に奮闘努力よく万難を克服して学者として大

成するに至った人である。しかも君はあまり人の進まざるフランス経済学の研究を企てて我國の学界に未知の世界を開拓した。日本経済学界につくし、且つ遺した功績は偉大であるといわねばならぬ。君はひたすら學を好み又學に精進したので、他にとりあげる程の趣味や娯樂はなかつたらしい。君の性格は意志極めて鞏固にして一旦たてた目的には必ず到達するという型の人であった。何事につけても実に慎重にして考えすぎると思われる程周密であった。これらは一つには生みの母親の訓練によるともいわれる。ああ君は苦難を克服して大学者として大成した。後世に輝く多くの著書も遺された。君は志した事をなした。遂げなすべからず。私の追憶は君の真面目のほんの一端にしか触れていない。他に真に君を伝える君の知人がある筈である。私はそれらの方に補充を期待して茲にとりあえずこの拙文を君の靈に捧げ且つ君の冥福をひたすら祈るものである。